

瞳の輝き

PART
3

夏 目漱石先生も云いました。とかく人の世は住みにくい、と。云いたいことを云い、やりたいことをやれば心は晴れ。でも、そんなこと周りが許しますか。下手すれば、いじめの餌食です。だから自分を曲けても良い子を装う。スカットしないですね。そんな人の世では、心が曇るのも致し方ない。眼は心の鏡と云います。心が曇るから、眼も曇ります。

で も、バイクに乗る人は違います。バイクに乗れば、そこは自分だけの世界。前方の流れを目で追い、作り物でない音を聞き、風の動きを肌で感じながらひたすら先を読む。心を曇らすものはない。心は晴れるから、眼も輝きます。だから、バイクに乗る人は眼が奇麗です。

眼 に輝きを呼び戻すバイク。でもバイクの効能はそれだけではありません。前向きな人をつくる、それもバイクです。

し がらみを問えば、女性の世界は男性以上に厳しいかも知れませんが、何かにつけて、決断するのは難しいです。

バイクに乗る女性は眼が綺麗です。それは、バイクが人を活かすスポーツだからです。



いでしよう。あちらを立てれば、こちらが立たず。どちらに決めても嫌な顔をする人は出る。そこで、物事はつきりさせず、うやむやにしたいのめ分かれます。でも、その姿勢を優柔不断と云います。

バ イクに乗れば優柔不断は通じません。バイクは、先を読み、危険を回避する能力を高めるスポーツです。危険の回避はとっさの判断です。もの。だから、何かに気付いて対応するに、迷う暇などありません。厭でも決断をせまられる。性格も変わるわけです。

バ イクは人を活かすスポーツです。バイクに乗る人は、前向きな心の持ち主です。しかも眼が奇麗。バイクに乗る人は輝いています。だから、バイクは素晴らしい。

バイク万歳！